



松明

(令和5年1月発行・隔月発行) 2023 vol. 1



P3 サンタが福島病院にやってきた♪♪より

「令和5年 年頭のごあいさつ」

独立行政法人国立病院機構福島病院 病院長 杉浦嘉泰



新年明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍に加え、国際情勢の緊迫化や円安・物価高など政治・経済的な変化が私たちの日常生活にも少なからず影響した一年でした。また、新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種率の向上により重症化率は減少しているものの、ウイルスの変異により感染者数は一昨年までと比較して劇的に増加しており、その結果高齢者の重症者数は増えております。しかし日常生活の制限は徐々に解除され、成人式や入学式なども対面で行われるようになってきました。年末年始の感染者数の推移からは、未だ出口は見えませんが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの引き下げも検討され始め、今年は感染対策を講じつつ更に社会生活が以前の状態に近づいていくものと思われまます。

さて、当院は厚生労働省が定めた政策医療に特化した施設として、重症心身障害と神経難病を中心としたセーフティネット系医療に取り組んでおります。小児科では重症心身障害児（者）病棟で脳性麻痺や筋ジストロフィー、先天性代謝異常症などの入院患者さんの全身管

理やリハビリテーション、療育に加え、レスパイト入院や外来診療での医療的ケア児の在宅医療のサポートを行っております。脳神経内科ではMRIやCTといった画像検査や、末梢神経伝導検査や筋電図、経頭蓋磁気刺激検査といった神経生理学的検査に加え、昨年より神経筋超音波検査を開始し、神経疾患について多面的に診断しております。また、神経難病病棟では筋萎縮性側索硬化症（ALS）や筋ジストロフィー等の患者さんの呼吸管理や、パーキンソン病・脊髄小脳変性症などの神経難病の患者さんの薬剤調整やリハビリテーション、レスパイト入院を行い、神経難病の在宅介護支援に取り組んでおります。

本年はwith CORONAの新しい日常に向けて、入院患者さんご家族とのコミュニケーションの充実や、セーフティネット系医療の中核施設として診療体制の更なる充実を図り、地域の医療機関と連携して福島県の皆様のニーズに応えられるよう職員一同努めて参ります。本年は明るい兆しが見える年になりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

本号のご案内

●「令和5年 年頭のごあいさつ」	1	●令和4年度医療安全相互チェック	4
●卯年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」	2	●健康プラザ 新型コロナウイルス感染症対策について	4
●療育日より 七五三を祝いました	3	●MRI検査について	5
●サンタが福島病院にやってきた♪♪	3	●職員紹介 人事のご案内	5
		●外来担当医表	6

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

卯年を迎えて 年男・年女より「今年の抱負」



療育指導室
室長
佐川 修
(さがわ おさむ)

●新年あけましておめでとうございます。
今年の干支は「卯」。「卯」でも「癸卯(みずのとう)」という年です。

「癸卯」は、「寒気が緩み、萌芽を促す年、これまで積み重ねてきた自身が試される年」とされています。最後まで諦めずに希望を持ち続けることが道を開く鍵になるようです。コロナ禍以降、停滞し続けていた世の中に、そろそろ希望が芽吹く春がやってくる年になると良いですね。さて、私も5回目の年男、還暦を迎える年となってしまいました。これまで積み重ねてきたこと、最後まで諦めずに、ただし、無理をしすぎず、ほどほどに、今まで尽くしてきた人事を信じ、おおらかな気持ちで天命を待ちたいと思います。

皆様にとっても希望が芽吹く春が訪れますよう。
本年もどうぞよろしくお願いたします。



薬剤科
薬剤師
吉田 志津恵
(よしだ しづえ)

●今年が福島病院で働き始めて10年目となります。
10年の間に出産・育児があり、薬剤科の仲間をはじめ、皆様のおかげでここまで来れたと感謝しております。

卯年は、芽を出した植物が成長していき茎や葉が大きくなる時期で、目に見えて大きく成長する年だといわれています。

また、うさぎは跳びはねることから、飛躍するという象徴になります。

さらに飛躍できるように頑張りたいです。



第3病棟
看護師
有我 周平
(ありが しゅうへい)

●新年あけましておめでとうございます。
早いもので福島病院に入職してから約13年が経ち干支も一周してしまいました。時間的には長い年月で楽しい事も苦しい事も色々ありましたが感覚的にはあっという間だった気がします。まだまだ看護師として足りない知識や技術がありますが優しくも厳しい先輩方から教わってきたこともたくさんあります。今後はそれを自分がそうであったように後輩に正しく教えていけるようにしていきたいです。

近年はコロナという事もあり患者さんはもちろん私たちにとっても苦しい時ではありますが少しでもみなさんが笑顔になれるように自分も笑顔を決やらず頑張っていきたいと思います。またコロナにも負けないように自身の体調管理もしっかり行っていききたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いたします。



事務部
管理課 庶務係
玉川 詩織
(たまがわ しおり)

●新年あけましておめでとうございます。
4月より福島病院に入職し、先輩方のご指導のもと、必死に仕事を覚えているうちにあっという間に時間が過ぎていました。非常に短い9か月だったように感じています。

今年から2年目になるということで、昨年より仕事において携われる範囲が広がると考えられます。まだまだ未熟なところは多々あるとは思いますが、そんな中でも、「玉川さんだからお願いしたい」と言われるような、期待される事務職員を目指していきたいです。

また、昨年は新型コロナウイルス流行の影響で様々な制限を受けながらも、入職して知り合った方々とともに仲良くなれたと感じており、非常に恵まれた1年でした。今年も縦・横のつながりを大事にし、自分の成長を願ってくれている上司や先輩方、常に支えてくれる同期に対して感謝の気持ちを忘れずに、コロナに屈することなく日々精進していきたいです。
今年もどうぞよろしくお願いたします。

去る12月14日(水)に重症心身障がい児(者)病棟に入院されている5歳の男子の七五三を、コロナ感染症が流行している中ですが、感染対策をした上、ご家族の皆様と一緒に6病棟にて行いました。

この日のためにとご家族が用意した袴への着替えをお母さんと共に行い、会に参加しました。お祝い会が始まると、お父さんに抱っこされ、終始リラックスし最後まで過ごすことができました。

七五三でいただいた千歳飴を、お母さんと一緒に食べました。初めての経験でしたが、あめの減りがとても早く「美味しいのかな」とご家族、スタッフ一同笑いながら、和やかな雰囲気の中で行うことができました。ご家族が帰る時間になり声をかけると、アラームを鳴らしまるで「まだ帰らないで」と訴えているようで、とても楽しい時間を過ごせたのかな、と思いました。

今回、七五三のお祝いをご家族の皆さんと一緒に行うことができ、大変光栄に思います。



初雪の便りが聞かれる今日この頃、重症心身障がい児(者)病棟では、令和4年12月21日(水)に今年最後の院内行事となるクリスマス会を開催しました。毎年、患者さんが楽しみにされているクリスマス会ですが、コロナ禍ということもあり昨年度に引き続き今年度も規模を縮小し、各病棟工夫をしながら実施しました。「メリークリスマス!!」という掛け声でスタートしたクリスマス会。今年の出し物は『プレゼント釣り(ツリー)』を行いました。折り紙で作られたサンタやトナカイのメッセージカードを釣り上げると、嬉しそうにカードを眺め

る患者さんの姿が印象的でした。クリスマス会終盤には皆さんとても楽しみにしていたサンタクロースが登場し、今年も各病棟にプレゼントを届けてくれました。気になる中身は、プロジェクターとスピーカーでした!カラオケや映写会を行うときに大活躍しそうです。最後にサンタクロースと一緒に写真を撮ったり、クリスマスソングを歌ったりと、素敵なひと時を過ごしました。今後も患者さんの笑顔を引き出せるような活動を提供していきたいと思ひます。



令和4年度医療安全相互チェック

医療安全管理係長 三浦真理

国立病院機構では3施設が1グループとなり、各施設の取り組みについて意見交換や評価を行う「医療安全相互チェック」があります。11月16日、山形県の米沢病院、新潟県の西新潟中央病院をオンラインで結び、実施した医療安全相互チェックについてご報告します。チェック項目は医療安全管理体制から医療事故発生時の対応、医療機器、摂食嚥下や骨折など188項目です。その中でも今回、福島病院は「チェックを受ける病院」として【身体拘束解除】【医療機器アラーム対応】【コミュニケーション】【コロナ感染症対策】について評価を受けました。

これらの4つのテーマは、神経難病及び重心患者を対象に医療を提供する当院だけでなく、一緒に相互チェックを行った他2施設においても患者さんやスタッフの安全を守る上で喫緊の課題であり、各施設の取り組みや課題について率直に意見交換を行いました。

約4時間余りに及んだ相互チェックでは、身体拘束適正化の指針及びマニュアル整備、コミュニケーションに関する研修実施、多職種協働で問題解決に当たってい

ることなど当院での取り組みについて高評価を受けました。

現在は身体拘束解除の取り組みや人工呼吸器マニュアル見直し、教育的なかかわり、ICTとの連携など改善に着手しています。すぐに改善できるものと長期的な取り組みが必要なものと様々ですが、患者さんが安心して当院で療養生活を送れることができ、スタッフの安全も守ることができるよう継続して取り組んでまいります。



健康プラザ

新型コロナウイルス感染症対策について

外来師長 今野香織

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、不安を感じている皆様も多いと思います。新型コロナウイルス感染症がパンデミックを起こし、3年目となる今も終息がまだ見えてきません。世界中に新型コロナウイルス感染症が広がる中、数々の変異を繰り返し潜伏期間や症状が変化しています。当初アルファ株の潜伏期間が5日～7日間で感染対策への対応ができましたが、オミクロン株が出現後3日間と短い潜伏期間により、暴露後数日後に発症する状況となっています。陽性者が見つかった時点で複数の感染者が発生している事態となり、早めの感染予防策が必要になっています。当院は昨年11月に新型コロナウイルスの院内感染が発生しました。病棟の患者様やスタッフに院内感染が発生し、当該病棟は閉鎖となり患者様、ご家族様、皆様に大変なご心配をお掛けしました。院内感染終息後は、対応を振り返り今後の新型コ

ウイルス感染症に継続した感染対策を行い患者様、ご家族様、皆様に安心していただけるよう病院全体で取り組んでいます。

マスク・換気・消毒 安全確保のために取り組んでいます！
当院ではスタッフのマスク・手洗い・換気・消毒・検温を徹底しています。

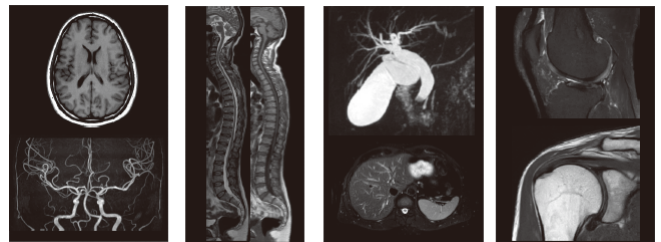
 マスクを着用	 手洗い	 手やベッドなどの消毒
 換気	 スタッフの検温	 No! CoronaVirus 皆様のご協力とご理解のほど 宜しくお願いいたします。

MRIとは、Magnetic Resonance Imaging（核磁気共鳴画像）の略語です。強力な磁石と電波を使用して、断層画像を得て体の内部の状態を知ることができる装置です。形が似ていて似たような断層画像を得るものに、CTといわれる装置があり、Computed Tomography（コンピューター断層画像）の略になります。両者の違いは、CTはエックス線を使用している検査で、MRIは磁場と電波を使用した検査でエックス線被ばくのないという点があります。体内の画像に関してもそれぞれ特徴があって、臓器・疾患の違いや診断・治療目的により使い分けられます。どちらが優れているということはありません。

MRI検査中は「ドンドン」「ビービー」といった「工事現場のような」と表現している様々な結構大きな音が発生します。この音は、傾斜磁場というMRI画像を得るのに必要な磁場を高速で切り替える時に発生している音です。機械の故障と感じる方もいるようですが心配はなく、動かず静かに横になっているだけで検査は進行していきます。

またMRI検査室内は、24時間365日、常時「静磁場」という磁場が発生しています。検査中だけでなくそれ以外の時間でも常に強力な磁場が発生しているため、金属等の持ち込みは吸着事故につながりかねません。検査室に入る前には、手持ちの物品だけでなく着衣などにも注

意を払う必要があります。検査の際には、診療放射線技師の指示に従っていただき、ご不明な点などあれば遠慮なくお申し付けください。



頭部領域

脊椎領域

体幹部領域

整形領域



●PHILIPS社製1.5テスラ Prodiva CS（2019年10月稼動）
最新デジタルコイルを使用しほぼ全身で各種検査に対応可能です。

職員紹介

人事のご案内



看護師（採用）

佐藤 めぐみ（さとう めぐみ）

- 出身地：郡山市
- 所属：第6病棟
- 趣味：子どもの追っかけ

●コメント：1月より6病棟に配属になりました。早く仕事を覚え、より良い看護を提供できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



医療社会事業専門員（ソーシャルワーカー）（採用）

和知 一将（わち かずまさ）

- 出身地：白河市
- 所属：地域医療連携室
- 趣味：ドライブ

●コメント：1月から入職した和知 一将です。以前は鹿児島県の病院で相談員として勤務していました。福島県に戻ってくるのは久しぶりで厳しい寒さに日々驚きながら通勤しています。早く新しい環境に慣れて、病院の一助となれるよう精進していきます。

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

[令和5年1月1日現在]

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内 科 2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内 視 鏡 検 査				安田千尋	
脳 神 経 内 科	伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小 児 科	福島医大	石井勉 氏家二郎	石井勉		河原田勉
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		石井勉 氏家二郎			河原田勉
専 門 外 来 (小児神経外来)			石井希代子		
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃井伸緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来	予 防 接 種 (午後)				
整 形 外 科	古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小 児 外 科				清水裕史	
脳 神 経 外 科		福島医大 (第2)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。
- 外来担当医表は令和5年1月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)

診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

明けましておめでとうございます。コロナウイルス感染症の流行に加えて、今年はインフルエンザの流行も懸念され、今後も引き続き感染対策をせねばと、心しています。当院のモットーであります地域医療への継続的な貢献を職員一丸となって安定してお届けよう頑張る一年としたいと思います。(編集委員 1・T)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>